

土木学会原子力土木委員会 リスクコミュニケーション小委員会  
第9回小委員会 議事録

1. 日時：2022年11月29日（火）15:30-17:30
2. 場所：Zoomによるオンライン会議
3. 出席者：奈良委員長、桑垣委員、武田委員、堀口委員、松村幹事長、蛭沢原子力土木委員会委員（オブザーバ）
4. 資料  
資料1 第8回リスクコミュニケーション小委員会議事録（案）（松村幹事長）  
資料2 原子力安全設計における専門家・技術者とリスクコミュニケーション —土木学会原子力土木委員会を対象としたデルファイ調査—、日本リスク学会年次大会2022 口頭発表資料（桑垣委員）

5. 議事要旨

前回小委員会の議論を踏まえて、論文原稿について、日本リスク学会年次大会の発表内容および質問を共有しながら意見交換を行い、方向性を確認していった。また、インタビュー調査等、その他の今年度の活動についても意見を出し合い、予定を確認した。主な内容をまとめると以下のとおりである。

論文については、調査結果を原子力土木委員会で披露して、その反応も含めるのがよいとの意見や、調査結果を見せるための論文とするのがよいという意見、実践などのゴールを見据えた内容とするのが望ましい等の意見が出された。また、発表内容における「相互作用のモデルを意識した取り組み」の重要性が認識され、その具体化についての事例（取り組み易い例として科学館・未来館とのコラボ、若者主体の例として学生主催のサイエンスカフェ、ツールの例として学会員のためのガイドライン化等）の紹介と意見交換（デルファイ調査の聞くツールとしての有効性等）を行った。リスク学会大会での質問については、検討を加えることで論文の内容が向上するのではないかとの意見があり、守備範囲の説明、価値（守りたいもの）の考察などとして追加していく方向となった。引き続き、今回の意見を踏まえて論文ドラフトを修正するとともに、調査結果の小委員会としての発信方法等について議論していく。

今年度のそのほかの活動については、インタビュー調査の準備を2月までに実施し、実施時期はその時点で再度検討・判断する。また、リスク学会発表の質問に関連して、地球環境委員会他とのコラボについても意見交換を行い、可能な範囲を見定めつつ、発表者が個別にコンタクトをとっていくことや、幹事長からも親委員会へ情報共有、相談等を実施していくこととなった。その他、原子力学会リスク評価部会へのデルファイ調査の経過とスケジュールについても確認した（第1回分析中、第2回12月中、第3回1月以降の予定）。

## 6. 今後の予定

論文ドラフトの修正、インタビュー実施項目の準備、原子力学会への調査等をメールベースで進める。次回小委員会（1/13 親委員会幹事会の前までに開催）にて、上記の進捗状況および親委員会報告の確認を行う。

以上